



第14号

「めぐみちゃんの まちづくりだより」

～ 市民と農家の宝もの けやきの里のめぐみです ～

西東京市では、農業者と市民が相互理解を深め、都市の農業・農地が持つ多面的な機能を発揮させることにより、農地の保全を図っていくことを目的に、「都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。北町の『農のアカデミー体験実習農園』では、8月～11月にかけて秋作の種蒔から収穫までを行いました。

事業の
ねらい

援農ボランティアさんたちにとっては、
農を知り、農を学び、農を楽しむ
子どもたちにとっては、
農を楽しみ、農に親しむ場とします。

事業の
効果

**農の生涯学習を
目指しています。**

農のアカデミー体験実習農園での主な活動（8月～11月）

8月

農のアカデミー体験実習農園の秋作は、援農ボランティアさんの区画では種まき（ニンジン、ダイコン、ミズナ、コマツナ）、定植（ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー）を行い、幼稚園・小学生の区画ではニンジンとダイコンの種まき、その他に児童センターの区画では、ハクサイの定植も行いました。

8月は秋作の作付準備のために、畑に肥料をまいて「地ごしらえ」を行いました。また、一足先にキャベツとブロッコリーの定植も行いました。



小さな苗もやがて大きく育ちます。



お水をたっぷり与えます。



地ごしらえは大事な作業です。



白菜用にはマルチを敷きます。

9月

9月に入り、農のアカデミーでは参加団体の区画で秋作の作業が始まりました。幼稚園や小学校の子どもたちは、まだまだ残暑が続く中、指導農家さんと援農ボランティアさんに指導をもらいダイコンの種蒔をしました。

7月に種蒔をしてからぐんぐん育っているニンジンの間引きも行いました。間引きでは、株間を一定の間隔に保ちながら、成長の遅い株を中心に間引きます。農家さんと援農ボランティアさんで間引きを行うと、あっという間に終わってしまいます。



ダイコンの種の蒔き方を学びました。



小さな種は落とさないように慎重に！



白菜の定植方法を教わります。



間引きは作物に必要な不可欠です。